

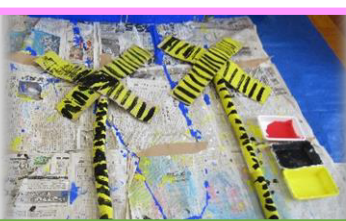
小学校の中にある ふじかわだいいち幼稚園

今週で1学期が終わり、長い夏休みに入ります。それぞれのクラスで始まった遊びは、子どもたちの思いを先生が汲み、形にしながら日々変化しています。今回は6月号で紹介した年中さくら組のその後をご覧ください。

年中
さくら組

自分の思いを先生や友達に伝えて遊んでいます。先生は、子どもたちの思いが実現できるように材料を整えて見守り、必要な時には手を貸して、子どもたちの「自分で」の気持ちを大切にしています。

友達と力を
合わせて踏切
を貼り付けて
います。



年長児の姿にあこがれて始まった「しんかんくん（新幹線）」作り。色塗りを終え、H君のアイデアで「踏切」も作るようになりました。

「持つところを付けたら運転しやすいかもしれない。」トイレットペーパーの心を付けています。



いろんな場所に行けるように、ビニールテープを床に貼り付けて線路を伸ばしています。



「車掌さんの服が要るよね。」と自分たちで何とかイメージに近いものを作りました。ボタンの部分はペットボトルの蓋とゴムひもを使って本物みたいに留められるようになっています。



年少さんや未就園児を乗せて得意げです。

帽子は先生が作ってくれました！

「新幹線の線路の周りには、普通のお家も建っているね。」と気付いた女兒たちが、線路の横にお家を作り始めました。窓からは走る「しんかんくん」が見えます。

自分たちの住むまちのことを知るきっかけにもなりました。



「本物の新幹線を見てみたい！」小学校の4階にある児童会室から、新幹線が見えるんじゃないか？ということになり、行ってみました。運よく4本の新幹線を見ることができました。



救急救命講習に参加しました。AEDやエピペンの使い方を研修しました。

小学校と
一緒に

